

雨の白川郷散策

今日は雨、雨なんか気にしないメンバー、寒さ対策して9時30分出発。
白川郷は近年までは「陸の孤島」と言われていたが合掌造りで知られるようになり1995年にユネスコ世界文化遺産に登録となる。

この合掌造りの家は「切妻合掌造り」と呼ばれる様式で金属のクギは一切使われず木製の「くさびやねそ」（マンサク）などが使われ、「ねそ」で締めた屋根は風雪に強く年月とともに強度をますという、風土に生きた先人の知恵です。



NHKで放映されたという5階建ての260年続く「長瀬家」を見学する。
1階は祝賀道具、医療具等、2～3階は生活用具、農機具、山仕事具等の展示となっており各人が幼少時代を思い出し

懐かしんで
いました。



長瀬家も平成13年に村人や全国のボランティア500人以上で80年振りに屋根の葺き替えをしたとの事。人の手なしには維持出来ない助け合い、支えあう

心、人と人を結びあう「結の心」が息づいた合掌造り・・・今後難題もあると思うがいつまでも後世に守り伝えてほしいです。

この後、集落が一望できる萩町城跡に行く。眼下に広がる合掌造りの集落、

そこからの眺望は格別、又、冬はライトアップの幻想的な光景をみる事ができ最高の撮影スポットです。



萩町城跡

次に大橋コレクション館の見学

鍾乳洞の発見者〔大橋外吉〕が集めた世界の美術品、工芸品、装飾品などを常時1000点程展示してある館です。珍しいもの、素晴らしいもの、よくぞこんなに沢山集めたと感心する。

つづいて太古のロマンあふれる「飛騨大鐘乳洞」を見学する。

1965年に大橋外吉が発見した日本一の



飛騨大鍾乳



ヘリクタイトの鍾乳石

標高(900m)に位置し海のサンゴなどから石灰石が長い間の雨水に溶けて少しずつ堆積してできた鍾乳洞です。

“ヘリクタイト”といって捻じれて垂れ下がる鍾乳石は学術的にめずらしいそうです。

又、“ナイアガラの滝”の様な所、大胆な石の裂け目が見事な“月の世界”といわれる所など色々なオススメスポットがあり幻想的、神秘的な雰囲気です。ウツトリ・・・2日目終了です。

最終日は宿を10時出発、途中道の駅での買い物タイム、昼食は念願の信州そばを食しおおいに満足、紅葉にはまだ早い時期でしたが車中ではお喋りに花が咲き楽しんでいる内に無事東松山に到着となる。皆、元気で帰れたことに安堵しました。



部長兼務の運転手さん、3日間本当にお疲れさまでした。感謝、感謝です。

記 : 小澤
写真 : 我妻